

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

群馬県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	Jリーグ(J2)ガスバ草津の献血推進ポスター作製とイベント実施	若年層サポーター(10~20代)の県内若年層	イベントは4,000人参加
2	群馬県学生献血推進連合の献血キャンペーン	短大生・大学生	キャンペーンは5回実施。献血者400人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力団体の確保と増回実施依頼	献血未実施団体の事業所の開拓・増回実施と献血ルーム周辺事業所の献血ルームでの協力。	30社新規協力(献血ルーム登録団体、街頭献血協力団体も含む)
2	緊急時、献血ルームへ献血者動員可能団体の確保	血小板献血・赤血球血液型別不足時の動員可能事業所確保	20社新規協力
3	移動採血時の近隣企業開拓	移動採血実施時に周辺企業の協力依頼	50社新規協力(移動採血先までの送迎検討)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メール献血協力要請	複数回献血クラブ会員	①緊急時血液型指定PC献血の応諾者数 50名以上 ②一般依頼の応諾者数1,000名以上
2	健康相談(リラクゼーション)の実施	複数回献血クラブ会員	冬季(2月・3月)に実施。県内3献血ルーム 複数回献血への誘導
3	はがきによる献血依頼	移動採血では会場別・献血ルームではルーム別の一定期間未実施の献血者	応諾者数4,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	400mL推進委員会の設置	血液センター職員	
2	献血受付資材の見直し(のぼり、ポスター等)	全血献血者、	全献血会場に持参、設置
3	高校献血における400mL献血の受け入れ	400mL献血可能者	5校

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	次回予約献血の推進	血小板成分献血者	3ルームで平日1日9名の予約確保。(1ルーム1日3名)年間3,000名を確保する。
2	需給の情報を把握し電話による献血依頼	血小板成分献血者	緊急時依頼で年間100名
3	需給の情報を把握し事業所献血依頼	血小板成分献血者	緊急時依頼で年間100名
4	イベント会場へのルーム車両派遣し送迎	血小板成分献血者	年間50名

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

福井県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	セミナー開催	短大・大学・専門学校生	5回開催・参加150人以上
2	献血推進キャンペーン	16～29歳	10～20代の献血者確保対策 夏季・冬季に推進キャンペーン実施(協力者1,000人以上);母体中心
3	はがきによる献血依頼・要請	18～29歳	協力者数1,000人以上
4	学校内献血推進	短大・大学・専門学校	短大・専門学校:1回/年 大学:2回/年

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施・休眠中および会場周辺企業	10社
2	緊急要請可能な企業・団体の開拓(全血・成分)	血液センター周辺企業団体(小規模):送迎対応	5社
3	事前周知の徹底	企業・団体への出前講座の開催	20社
4	企業・団体担当者の研修会開催	協力企業・団体	年3回

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	キャンペーン実施(クラブ会員募集含む)	クラブ会員・献血者	新規200人
2	メールによる献血依頼	クラブ会員	協力者300人
3	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	協力者500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血のみ受付企業・団体の確保	過去の400mL献血実績の高い企業・団体(90%以上)	10社(ショッピングセンター:1回以上/月実施)
2	推進用資材の製作	献血者	全献血会場
3	年間計画の見直し	年2回以上実施企業	400mL献血の間隔・総量を考慮した計画の策定
4	高校献血の見直し	400mL献血受入可能校	2・3年生が対象とし400mL献血可能とする:5校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	母体中心:推進キャンペーン	献血者全員(特に血小板成分献血)	献血者を1日平均30人以上確保する。
2	次回PC予約推進	血小板成分献血者	2人/日を目標:年間500人以上を確保する。
3	成分献血ポイント制	成分献血者:PC献血優遇	達成者:150人/月⇒200人/月

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

山梨県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高校献血の全校実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	短大・大学献血の実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
3	セミナー開催	高校・短大・大学生	3回開催 参加200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	20社増加
2	年1回の献血団体を年2回実施	年1回実施企業・団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	実協力者数200人以上
2	はがきによる献血依頼	一定期間未献血者及び前回献血者	実協力者数2,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高校献血における学年規制	高校3年生を中心に実施	400mL献血者1,000人以上
2	大学献血における400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者1,200人以上
3	献血ルームにおける400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者3,000人以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高校献血における学年規制	高校3年生を中心に実施	400mL献血者1,000人以上
2	大学献血における400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者1,200人以上
3	献血ルームにおける400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者3,000人以上

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

長野県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	16~22歳(高校及び大学等)	年4回 参加者200名
2	献血キャンペーン	若年層を狙った街頭献血	学生ボランティア約50名による推進活動

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施などの企業・団体への協力活動	県下で20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	実協力者10,000人以上
3	ポスターの配布	人通りの多いJR・私鉄・大型ストア	50ヶ所へ配布依頼

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	400mL献血推進資料作成	献血者全員に配布して必要性を訴える	会場での設置及び配布
2	渉外時での400mL献血の推進	担当者へ400mL献血の必要性の理解を得る	担当者からへのPR(口頭、社内メールなど)
3	高校献血の400mL献血受入	400mL献血可能な学生への献血推進	県下で2校

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

岐阜県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高等学校推進	県下全高等学校	実施30校
2	大学・短大・専門学校推進	大学・短大・専門学校	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	近隣企業からの送迎協力	献血実施会場周辺の企業・団体	1稼働平均献血者の増
2	新規事業所の開拓	献血協力者30名を望める企業・団体	数社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前年度から1年間未献血者	応諾率10%
2	事業所(企業・団体)の複数回実施	年1回実施で大口協力事業所	数カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時の推進	400mL献血基準を満たしている献血者	基準を満たした方、全員の快諾

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	職専免	県、市町村での成分献血者	月2回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	はがきによる依頼	誕生日等、献血間隔に応じて	月3, 500名

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

静岡県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	小・中・高生対象の献血勉強会	小学生・中学生・高校生	参加者 30人
2	JRCメンバーへの献血勉強会	小学生・中学生	参加者 300人
3	学生ボランティア活動の充実	高校生・大学生	ボランティア 80人確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業・新規参入企業	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者800人
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	応諾者10,000人
3	実施会場(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	10会場

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付・問診・比重時に400mL献血の推進	200mL希望献血希望者	
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	応諾者10,000人
3	女性献血協力者への推進	400mL献血可能者	

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	月曜日から金曜日の献血者確保	成分献血可能者	平日の成分献血者を1日平均105名確保

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

愛知県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	学生献血連盟によるキャンペーン	18～22歳の若者	参加600人以上 10～20代献血者構成比35%以上
2	中部学生リーダー研修会	短大生・大学生	2回以上開催 参加者数 100人以上
3	若年者献血セミナー	16～30代の若年者	2回以上開催 参加者数 100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体。	60社新規、休眠団体の実施。
2	優良企業・団体の年複数回実施。	1稼働90単位以上の企業・団体	12企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	協力者数 500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	協力者数 2,000人

④400mL 献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	応諾者数 10,000人以上
2	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	3校
3	受付時における更なる推進	400mL献血可能者	400mL比率85.2%

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

三重県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	文化祭での啓発パネル展示	高校・短大・大学	10校以上
2	若年層献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加1,000人以上、期間中10～20代の献血者構成比35%以上
3	セミナー開催	18～22歳の若者	3回開催、参加150名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	20団体新規登録
2	緊急要請可能な団体の確保	血液型別指定献血が可能な優良企業・団体	10団体
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び企業	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	年に1～2回しか行かない企業・大学でパンフレット配布。固定施設周辺の年間1～2回献血者に対して(1,000名)郵送でパンフレット配布。研修会での説明会	新規会員700名募集
2	電話による400mL献血の募集	献血依頼応諾者(一定見献血者含む)	応諾者(実協力者)900名以上
3	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者(実協力者)150名以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	大企業・官公庁での通勤時の呼びかけ	全社員、全職員	10団体
2	献血協力団体・献血推進団体への複数回協力依頼	企業、団体に年3回実施	献血バス(400mLのみ)は採血間隔、年間採血量を考慮して策定
3	電話による依頼	電話依頼OKの方のみに不足時に依頼(400mLのみ)	80人/月を目標に年間900名確保
4	400mL高校献血実施	400mL献血可能者	2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	次回の予約依頼	血小板成分献血者	3人/日を目標に年間900人を確保する。
2	電話による依頼	電話依頼OKの方のみ血小板献血依頼	200人/月を目標に年間2400人を確保する。
3	成分献血登録者の確保	条件を満たす全献血者	20人/月を目標に年間240人を確保する。